

著作権

－実習を通して著作権を考えよう－

1 ねらい

著作者の立場で、著作権の権利内容について学習するとともに、財産権としての著作権の一面に関する実習などを通して、無断利用の不道徳性等を実感させる。また、利用者の立場で、著作物利用許諾や著作物が自由に利用できる場合について理解し、公正で適切な著作物の利用ができるようにする。著作権を守ることが文化の発展につながることを理解する。

2 内容及び教材

(1) 指導内容

情報 I 情報社会の問題解決（情報に関する法規や制度）

(2) 使用教材（配付資料等）

ア [授業プリント](#)

イ [事前アンケート](#)

ウ [事後アンケート](#)

3 指導の流れ

(1) 基本的な指導の流れ

時 限	学習内容・学習活動	指導上の留意点
	事前準備 ○事前にアンケート調査を実施する。	
1	○著作権についての事前アンケートの結果を確認する。 ○著作権の権利内容を確認する。	・事前アンケートの結果から、授業の進展によって著作権に対する意識がどのように変化するかを生徒が自覚できるようにする。 ・著作権の定義、著作者の権利、著作権の保護期間、著作者人格権、著作権隣接権など基本的な内容を確認する。 ・複雑な権利内容の詳細を覚えさせるのではなく、必要に応じて調べることができるようにウェブページでの

	<p>○著作物から得られる収入の仕組みを確認する。</p>	<p>調べ方を身に付けさせるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・著作物（音楽CD）から得られる収入を簡易的に計算することで、著作者の立場として著作権を考えるよう促す。 ・著作物から得た収入が次の著作物を創造する資本になることもあり、著作物を保護することが文化の発展に寄与することに気付くよう促す。
2	<p>○著作物を自由に利用できる場合を確認する。</p> <p>○著作物の使用料の仕組みについて確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私的利用のための複製，引用，学校その他教育機関における複製や，営利を目的としない上演などについて説明する。 ・著作物を自由に利用できる著作権の制限があるのは，文化の発展に寄与することを説明する。 ・音楽著作物の使用料を計算させることにより，適切な手続きを経て著作物を利用しなければならないことを説明する。
3	<p>○著作物利用許諾を得る方法を確認する。</p> <p>○まとめ（事後アンケート）及び著作権についての感想を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・著作物利用許諾申請が口頭や管理団体を通じて簡単に行えることを説明する。 ・契約内容を明確にするためには文書として残すことが必要であることを説明し，契約書が簡単に作成できる体験を行っていることを説明する。 ・生徒の知識や意識がどう変化したかを確認する。 ・アンケートに回答させることで，著作権に対する知識と意識を確認する。 ・アンケートに基づき，感想を発表させ，事前アンケートからの意識の変容を生徒相互で確認する。

4 評価の例

評価の例として、次のようなものが考えられる。

時 限	学習内容・学習活動	評価規準	評価方法・評価の観点
1	○著作権の権利内容	・著作権における人格権と財産権について理解している。	・プリント [知識・技能]
	○著作物から得られる収入の仕組み	・著作物から得られる収入の仕組みについて理解している。	・プリント [知識・技能]
2	○著作権の制限	・著作物を自由に利用できる場合の条件を理解している。	・プリント [知識・技能]
	○著作物使用料の仕組み	・著作物が財産であることを理解している。	・プリント [知識・技能]
3	○著作物の利用許諾	・著作権契約書を作成する技能を身に付けている。	・プリント [知識・技能]
	○学習のまとめ	・著作権について、理解したことをまとめて記述している。	・プリント [思考・判断・表現]